

米帝のカンボジア侵略弾劾 外相のアジア会議参加阻止

全市大の学友諸君！ 今やアメリカ帝国主義は、カンボジア侵略を開始した。米国内では反戦斗争が激化し、それに對する弾圧が、四學生の射殺というようになつた。我々は、このような帝國主義の動向を歴史的、具體的にとらえ、その支配、侵略を粉碎していかねばならぬ。

一九五四年のジュネーブ協定でインドシナは休戦状態になつたのだが、59年ラオス非常事態、62年ラオス連合政府成立、63年南ベトナムのクーデターという振れ動く情勢の中で、64年8月のトンキン湾事件以来北爆を始め、米帝は、インドシナでの支配を貫徹せんとしてきた。しかしながら、ベトナム戦の泥沼に足をとられてドル危料を進行させることになり、また反戦斗争の高揚の中で武力的勝利の困難なことを知つた米帝は、68年パリ和平会談から北爆停止へ、そして昨年のグアムドクトリンに見られるように「ベトナム戦のベトナム化」「アジアはアジアで」というような方向をとらざるを得なくなつてゐる。

だがしかし、帝國主義は帝國主義であるかぎり、してインドシナ人民の民族解放斗争を放置できないのである。リ、「ベトナム化」政策は、インドシナにおける帝國主義支配を維持するものとしてしかなれないものなのだ。そのために米帝は、北ベトナム軍、ベトコンの中央指令部、補給ルート、通信施設等を破壊せんとして、カンボジア介入を行なつたのである。

かくして短期決戦にもちこもうとした米軍は、南ベトナム政府軍と共に四月三十日カンボジア領内の聖域とよばれてゐる地区へと進攻を開始した。にもかかわらず共産側への大きな打撃は与えられず、北ベトナムへの威圧のためか五月一日から四日北爆を行なつた。一方ベトコンは、カンボジア南部への圧力を強め、西へと進出を始めた。カンボジア西部の解放地区においてカンボジア民族連合戦線が設立されるなどして、戦線はますます拡大してゐる。五月五日には、シアヌークらがカンボジア民族統一戦線の綱領を発表、その指導のもとにペンヌートを首相とするカンボジア王国民族連合政府を組織した。

そのような中で米軍は、ずるずるとその兵力を増大させてゐる。インドシナでの短期決戦の方針によつて、状況はよくなるどころかますます泥沼の様相を呈してきてゐる。そのために米軍は、カンボジア領内に基地をつくるなど長期戦の準備をすすめてゐる。とは言ふものの、米軍は長期戦をやるわけにはいかない状況にある。だからこそ短期決戦にもちこんだのだから。それで米軍は、カンボジアからはやばやと牛を引くことを宣言し、その後の南ベトナム政府軍のカンボジア駐留期限はないという宣言によつて、まさに「アジアはアジアで」を実現せんとしてゐる。

このような状況の中で5月16、17日アジア会議が開かれる。この会議は、米軍のカンボジア介入を正当化し、日米共同声明にみられるように、日帝がアジアにおける帝國主義的支配を担つていくことを確認するものとしてあるのだ。我々は、このような日帝のアジア進出を弾劾粉碎していかねばならない。

また、帝國主義者どもは、彼らの支配を維持することが困難になつてゐる。現在のうちにその弾圧を強めてゐる。あの五月四日ケンブリッジ大学での四學生射殺によつて、彼ら帝國主義者はその階級支配を自らさうけだしてしまつた。数日前からニフソンが態度をやめ、デモ隊と話し合うといふことも、まさに自らの階級支配の一環としてなされてゐるのだといふことを明確にしておかなければならぬ。

すべての市大の学友諸君！ あらゆる弾圧をはねのけて五・一四全関西統一行動に決起せよ！

スケジュール

5月14日 3時 米帝のカンボジア侵略弾劾市大総決起(於生協)
外相のアジア会議参加阻止

6時 全関西統一行動(於扇町)

S反安保学生委
CII会議